

御神火と夜空の花火に願う



▲冬空に花咲くあじさい花火。たくさんの人たちの願いが込められています



五十瀬神社からいただいた種火による点火の儀。どんと祭が始まります



▲地元の五十瀬神社で御祓いや玉串奉納など神事を行い、祭事の成功を祈願



▲焚上祭の種火を運ぶ御神火行列。種火を持つのは実行委員長の猪股研さん




▲焚き上がる炎に見入る



ゆっくりと祈りを捧げる。御神火の温かさを感じながら今年1年の幸福を祈願していました

**花火に震災復興を祈願
住み良いまちを目指す**

石越町のどんと祭は商工会青年部が始めたのがきっかけです。その後、平成元年に町おこしの思いを込め、町で取り組むことになりました。どこでもやっていけないものとして冬の花火を打ち上げるようになり、今年で26回目です。今年の花火には東日本大震災からの復興を祈願しました。奉賛会では、これからも住み良いまちを目指して頑張っていきます。



石越冬のまつり
奉賛会 会長
工藤 貞夫さん

五十瀬神社
天和3年(1683年)、町内に分散していた神明(天照大神)・建部大神(日本武尊)・白鬚大明神(猿田彦命)の三社を合祀。天照大神を祀っていることから五十瀬神社、またはお伊勢堂とも呼ばれ、伊勢参りとして栄えました。神社周辺は坂上田村麻呂の奥州征伐のとき館として使用され、高森古館とも呼ばれる。本丸跡(神社境内)から北方(参道中段)には二の丸跡が広がり、自然の地の利を生かした守りに有利な場所でした。



どんと祭に訪れる人の列は途切れることなく続きました



来場者を安全に誘導します



警備本部では、まつり警備をチェック。確認を怠りません



縁起福引きも実施



▲大会本部では甘酒が無料で振る舞われました。「温かくておいしい」と寒空のなか訪れた来場者の皆さんは冷えた体を温めていました